松平家の歴史

大河ドラマでは、徳川家康が活躍していますが、家康の祖先が松平家です。松平家八代の歴史をちょっとだけ訪ねてみましょう。（諸説あります）

初代　親氏（ちかうじ）

もとは時宗の僧侶で徳阿弥と名のっていた。諸国を遍歴し、三河にたどり着いて、松平郷の松平太郎左衛門の娘婿となり、この地を治めた。

二代　泰親（やすちか）

親氏の弟または子とされる。岡崎方面に進出し、岩津城を落とし支配下に置いた。

三代　信光（のぶみつ）

大給城（おぎゅう）、保久城（ほっきゅう）を支配下に置き、松平一帯を固める。さらに安城城、岡崎城をも攻略し、三河における一大勢力となる。

四代　親忠（ちかただ）

信光の三男だったが、安城城の城主となり、安城松平家の初代として活躍する。菩提寺である大樹寺を建てる。

五代　長親（ながちか）

親忠の子で、安城松平家の二代目。今川氏が侵入してきたため井田野で戦い、激戦の末これを退けた。岩津松平家が滅んだため、松平家の惣領（そうりょう）となる。

六代　信忠（のぶただ）

長親の子。安城城主となるが、家督をめぐって弟の信定と争い、家臣団も両派に分裂したという。

七代　清康（きよやす）

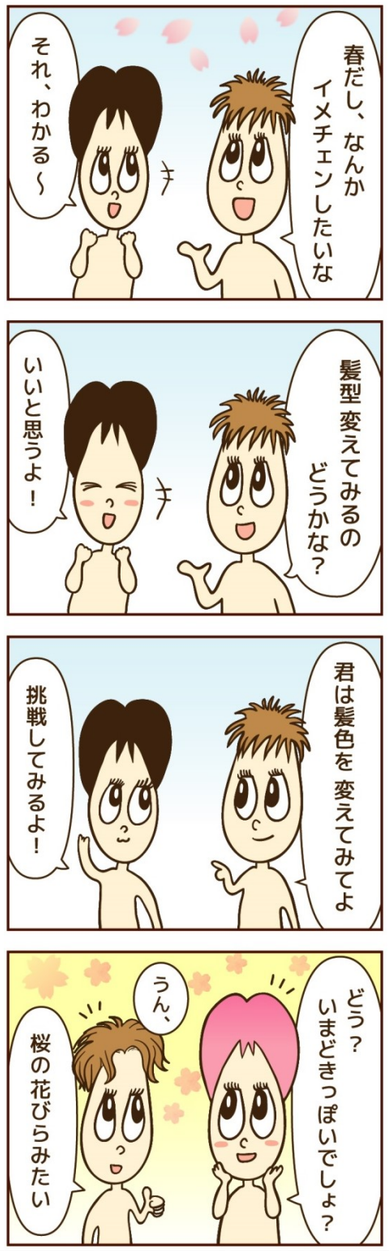
家督を継いで安城城主となる。家督争いを治め、岡崎城に入る。その後、足助、豊橋、西尾、豊田方面を攻略し、三河地方の大半を支配した。しかし、尾張との戦いのさなか、家臣によって殺害される。

八代　広忠（ひろただ）

清康の突然の死と松平家の内紛もあって岡崎城を追われる。今川家を頼り岡崎に戻るが、織田勢との争いが続く。病死または暗殺されたとも言われる。松平家の行く末は、人質となっていた幼い竹千代（家康）に託される。

だいまっ村日記

No.75　　わやこ

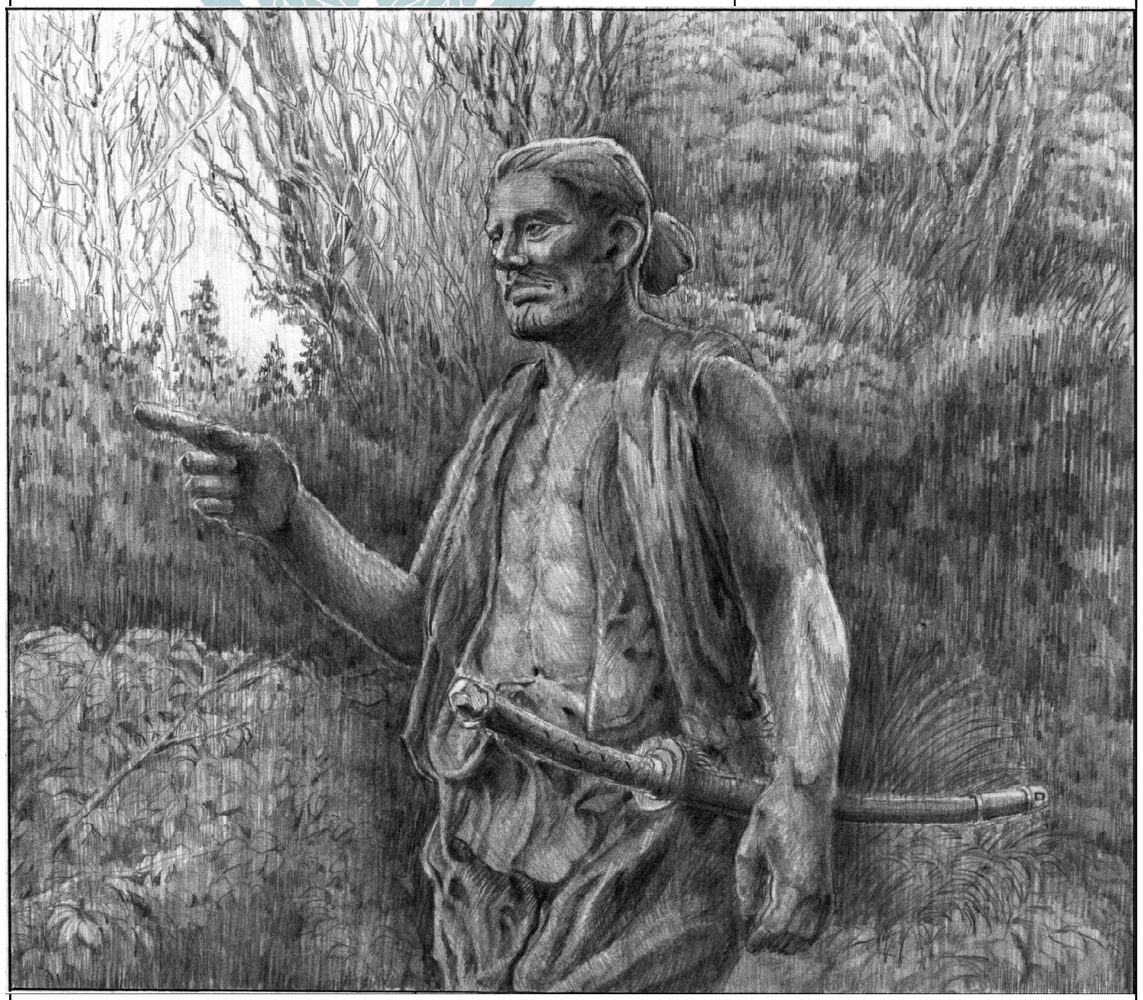


編集後記

今年度の最終号となりました。今年は、松平ホワイトヒルズが完成し、例年以上のイベントが開催されました。新年度もコロナに負けずに、松平を盛り上げていきましょう。

広場
まつだいら
HIROBA MATSUDAIRA

第２０５号
令和５年　４月　１日
編集:松平地区コミュニティ会議
広報部会



表紙絵　吉田祐示

松平郷に立つ松平親氏公

今年、大河ドラマ「どうする家康」で活躍する徳川家康のルーツが、松平親氏公です。親氏から数えると九代目が徳川家康となります。

【松平宗家の系図】

初代　二代　三代　四代　五代　六代　七代　八代　九代

松平親氏（ちかうじ）—泰親（やすちか）—信光（のぶみつ）—親忠（ちかただ）—長親（ながちか）—信忠（のぶただ）—清康（きよやす）—広忠（ひろただ）—家康（いえやす）

初代徳川家

インディアカ大会

12月4日(日)　主催　スポーツ部会

松平体育館にてインディアカ大会が開かれました。１１チーム５６名の参加があり、すばらしい体育館を満喫しながら、チーム一丸となって熱戦が繰り広げられました。

開会式

今年も感染症対策を取り、ディスタンスを守って…

アタック！

レシーブ！

みんなファインプレー！

いつの間にか

寒さも吹っ飛んで

豪華賞品!?

おめでとう！優勝　岩倉東Ａ

準優勝　大給城

３位　岩倉南Ａ

ちゃれんじ冬

12月4日(日)　主催　松平交流館
青少年育成部会

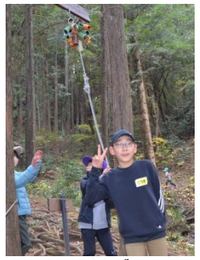
豊田市総合野外センターにて「ちゃれんじ冬」を交流館と青少年育成部会が共催で開催しました。参加者は小学生４２名。オリエンテーリングや野外炊事、森の迷路など、自然の中で、みんなで力を合わせて楽しく遊びました。

みんなで協力してお料理しましょう！

ソーセージにチョコフォンデュ、焼きおにぎりも

今度は森の迷路に出発！

ゴールはどこだー


やった！ゴール

全員集合！楽しかったネ